

市民公開講座

市民公開講座

小児ドナー家族のグリーフケア

種市 尋宙

富山大学 小児科

一人の子どもの命が失われ、臓器提供によって何人かの人たちに臓器が受け継がれていく。受け取るレシピエントは新たな光が差し込み、明るい未来を信じて闘病を続けることとなる。一方、提供したドナーはその時に短い命が終わることとなる。遺された家族は救急搬送されてきた時に告げられた絶望感とはまた別の絶望感、永遠の別離を感じる瞬間となる。

脳死下臓器提供の過程はドナー家族へ多くの負担をかける。次から次へと重要な判断をし決断しなくてはならず、その判断が良かったのか悪かったのか、本当に考えた末の結論だったのか、それさえも自信が持たなくなってしまうこともある。その負担を少しでも和らげるために医療者にできることは限られていたとしても、関わらないという選択肢はない。現在までにわれわれは児童からの臓器提供を2例経験している。通常、退院後はなかなか相互に連絡が取りづらい状況が生まれるため、両家族へは退院時にグリーフカードを渡し、何かあれば家族から連絡が取れる状況としている。これは、臓器提供に限ったことではなく、当科では小児死亡事例に全例行っている。それにより家族の死亡退院後の思いを蓄積してきたが、いまだに試行錯誤しながら行っている。また、それとは別に臓器提供後の場合はコーディネーターとの連携で家族フォローを実施している。サンクスレターや大臣表彰、レシピエント経過報告などの際に一緒に自宅への訪問を行ったり、近況を教えてもらったりしながら家族の様子を見聞きしている。全力を尽くしたとはいえ救えなかった命に対する申し訳なさはあるものの、そこでとどまっていたら家族を救う機会をも失ってしまう。拙いながらもわれわれ医療者にもできるグリーフケアがあり、臓器提供後という状況であれば、より積極的に関わる機会と手段がある。これをさらに発展させていくためには、まずは医療者の前向きな姿勢が求められている。

【略歴】

- 1998年 富山医科薬科大学医学部卒業 同大小児科入局
- 2007年 富山大学博士課程修了
- 2008年 国立病院機構災害医療センター救命救急科(東京都立川市)
- 2009年 富山大学小児科助教
- 2019年 富山大学小児科講師 現在に至る

市民公開講座

臓器提供意思を生かすために！ ～救急における看取り医療～

秋山 政人

公益財団法人新潟県臓器移植推進財団

臓器提供推進活動とは、単に臓器提供者を増やすことではなく、医療者にとっても、患者・家族にとっても満足いく治療があり、そして残念ながら終末期を迎えた患者・家族のLiving Will（生前の意思）実現を無理なく行える環境作りが大切である。その生前の意思（看取り）の希望が臓器提供であれば最良の環境で希望を叶えることのできる医療機関を構築することが新潟県の臓器提供推進活動（普及啓発活動）である。

救急という場を家族の視点で見れば、救命センター等の重症ユニットへ搬入される患者は、慢性疾患患者とは違い、受傷・発症する瞬間まで元気だった方が多数を占める。家族からすれば、極めて受け入れがたい事象が突然襲ってくるのが特徴の医療現場である。すなわち急激に、また重く悲嘆を伴う瞬間でもある。

家族への寄り添いを中心としたケアのためには、臨床経時的な配慮をもったコミュニケーションスキルや心のケアを熟知し、さらに活用できる人材がそこには必要となる。

こうした悲嘆に暮れている家族に対し「臓器提供意思の抽出」を行うのは容易なものではない。しかし終末期ケアからみれば、家族の悲嘆の軽減を図り患者の病状を理解させ、結果、回復の見込みがない由を家族に認識させた後に臓器提供意思の抽出を図る事が絶対的に必要である。

患者に対する可能な限りの救命治療を提供すると並行して、刻々と変わる病状を受け止めなければならない家族に対するケア、救命できなかった場合の看取りの医療から臓器提供へとつながる連続的な流れを構築してゆくような臓器提供推進活動を構築して行くことが最重要課題と考えて活動した20年間を紹介し、ご臨席のご家族と共に救急における看取り医療を実際の体験としてご指摘いただき、さらなる医療機関啓発の参考のため学ばせていただきたい。

【略歴】

- ・1989年 3月 長野大学産業社会学部社会福祉学科 卒業(医療福祉学専攻)
- ・1995年 4月～2016年 7月 臓器斡旋委嘱(ドナーコーディネーター)
- ・2000年 4月～ 新潟県臓器移植推進財団 着任
- ・2001年 4月～現在 眼球斡旋委嘱(新潟県)
- ・2002年 4月 Donor Action Train-The-Trainers Course修了(ベルギー)
- ・2006年11月 Transplant Procurement Management (TPM) Advanced Course修了(スペイン)
- ・2014年 4月 平成26年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞
「地域医療機関を中心とした献腎移植の普及啓発」 他